

[分類]	普及技術
[成果名]	キャベツ株腐病防除にセイビアーフロアブル 20 が有効である
[要約]	キャベツ株腐病防除にセイビアーフロアブル 20 の 1,000 倍液を散布する。
[担当]	野菜花き試験場佐久支場
[部会]	病虫部会

1 背景・ねらい

キャベツ株腐病は本県の初夏～夏秋季において発生する重要病害である。本病防除に際しては、発病前から、作用性の異なる薬剤を用いたローテーション散布を行う必要がある。既普及の薬剤とは異なる作用性を有するセイビアーフロアブルについて、本病に対する防除効果および薬剤を検討したところ、有効な結果が得られたため、今回普及技術として提案する。

2 成果の内容・特徴

- (1) キャベツ株腐病防除にセイビアーフロアブル 20 の 1,000 倍液を散布する。

農薬登録内容

セイビアーフロアブル 20

[一般名及び成分含有量] フルジオキソニル 20.0% (FRAC コード^{注)}:12)

[毒性] 人畜毒性：毒物、劇物には該当しない

[魚毒性] ー

[対象作物に対する適用登録状況（平成 25 年 10 月 1 日現在 JPP-NET 確認）]

作物名	適用病害名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数	使用方法	フルジオキソニルを含む農薬の使用回数
キャベツ	株腐病 菌核病	1,000 倍	100～300 L/10a	収穫 3 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内（但し、種子への処理は 1 回以内、散布は 3 回以内）

本試験は純粋に殺虫剤の効果を判定する目的のため、また、適用登録内容が決定される以前に実施したため、散布回数は適用登録の回数を超えた。

注) FRAC コードとは FRAC (殺菌剤耐性菌対策委員会) が定める殺菌剤の作用機構による分類で、同じコードは同一系統を表す。詳細は Japan FRAC のホームページ (<http://www.jfrac.com/>) を参照する。

3 利用上の留意点

- (1) 本剤はフェニルピロール系薬剤であり、病原菌の菌糸生育を抑制すると共に病原菌の植物体への侵入を抑制する。
 (2) 発病後の散布では十分な効果が期待できないため、使用は生育期前半から予防的に使用する。
 (3) レタスに対して薬害を生じる恐れがあるので、付近にある場合はかからないように注意する。

4 対象範囲

県下全域

5 具体的データ

- (1) セイビアーフロアブル 20 のキャベツ株腐病に対する試験を佐久支場内圃場で実施した。平成 15 年の試験は多発生条件下の試験となった。本剤の 1,000 倍液は、対照薬剤のバリダシン液剤 5 の 800 倍液と比較して優る防除効果であり、無処理と比較して高い効果が認められた。薬害は認められなかった（表 1）。

表1 キャベツ株腐病に対するセイビアーフロアブル20の防除効果
(平成15年、野菜花き試験場佐久支場)

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率 (%)	発病度 ^{a)}	防除価 ^{b)}	薬害
セイビアーフロアブル20	1,000	18.0	32.0	11.1	85.9	なし
バリダシン液剤5	800	18.0	50.0	22.2	71.8	なし
無処理		18.0	98.0	78.7		

a) : 発病度 = Σ (発病指数 × 株数) × 100 / (3 × 調査株数)

程度別発病指数 0 : 発病を認めない、1 : 外葉の1~2枚に発病が認められる、2 : 外葉の3枚以上に発病が認められる、3 : 外葉に発病が認められ、結球部にも発病する

b) : 防除価 = (無処理区の発病度 - 処理区の発病度) × 100 / 無処理区の発病度

試験場所：野菜花き試験場佐久支場 場内圃場。品種：「つまみどり」。定植：5月26日

区制・面積：1区6.6m² 40株/区 3連制。対象病害の発生状況：多発生

処理方法：6月4日、21日、7月6日および15日の4回、所定濃度の薬液を10aあたり300Lの割合で散布した。

調査方法：最終散布14日後の7月29日に各区の18株について、発病の有無を程度別に調査し、発病株率および発病度を算出した。

(2) 平成16年試験は中発生条件下の試験となった。本剤の1,000倍液は、対照薬剤のバリダシン液剤5の800倍液と比較して、やや劣る防除効果であった。無処理と比較して効果が認められた。薬害は認められなかった(表2)。

表2 キャベツ株腐病に対するセイビアーフロアブル20の防除効果
(平成16年、野菜花き試験場佐久支場)

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率 (%)	発病度 ^{a)}	防除価 ^{b)}	薬害
セイビアーフロアブル20	1,000	45.0	12.6	5.7	75.5	なし
バリダシン液剤5	800	45.0	4.4	2.5	89.4	なし
無処理		45.0	39.3	23.2		

a) ~ b) は表1と同じ

試験場所：野菜花き試験場佐久支場 場内圃場。品種：「つまみどり」。定植：5月17日

区制・面積：1区15.8m² 90株/区 3連制。対象病害の発生状況：中発生

処理方法：6月22日、29日、7月6日、13日および20日の5回、所定濃度の薬液を10aあたり300Lの割合で散布した。

調査方法：最終散布15日後の8月4日に各区中央部の45株について、発病の有無を程度別に調査し、発病株率および発病度を算出した。

6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

野菜・花きおよび畑作物の新規農薬等の効果試験、平成15、16年度(2003、2004年度)、民間受託